
デッドケージ、バタフライ

雪芳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デッドケージ、バタフライ

【NNマーク】

N4887J

【作者名】

雪芳

【あらすじ】

世界はもうすぐ終わる。空のカケラが落ちてきた。

チポは男の子かもしれないし女の子かもしれない、大人かもしれないし子どもかもしれない、チポでした。

もしかしたらあなたかもしれないチポは、勇気のあるチポでした。

だからというわけではありませんが、チポは青い大地を歩いています。

どうして大地が青いって？ それは空のカケラが世界を覆つてしまつたからです。

空のカケラが落ちてきたのは、もう百年も昔のことでした。

だからというわけではありませんが、チポはひび割れた青い大地を歩いています。空のカケラが落ちてしまつたせいで、朝がなくなつてしまつた世界には、黒い空と実りのない青い大地だけが広がっています。

ぱつり、あつ！

遠くに赤い点を見つけて、チポは早足になりました。燃える星のような、赤い点です。

点はどんどん大きくなつて、小さな赤い鳥になります。鳥はどんどん大きくなつて、鉄の鳥になりました。飛行機です。

チポはみんなにないしょで、飛行機を作つているのです。

どうしてないしょにしているかというと、みんなは飛行機をバカにしているからです。

人は空を飛べないんだよ、だつて羽がないんだから。みんなはそういう言つてチポをバカにするのでした。

おかげでここまで、チポの飛行機づくりはナメクジのはやさと良い勝負で、だからチポは、町より遠くの場所でひとり、飛行機づくりをはじめました。

さてさて飛行機づくりをするチポですが、みんなにバカにされていますけど、バカではないと思われました。チポは人に羽がないことを知っていたし、空を飛んだ人はいないことも知っていました。だけどチポは、それが飛べない理由にはならないような、そんな気がしていました。

羽がなければ作ればいい、飛んだ人がいなければ飛べばいい、チポはそんな風に考えていました。だからチポは、羽のある鳥を観察し、鳥のかわりになる機械の羽に名前をつけました。飛んで行く機械、飛行機と。

そして今日、チポは空を指すのです。

チポは飛行機に乗りました。ギシギシと、疲れた炭坑員の背骨のような音がします。飛べるかしらと不安になつて、飛べるかもよとチポは安心しました。

せまい操縦席の前には、船から盗んだ舵（これをチポはハンドルさんと呼んでいます）があります。

足の部分には馬車から盗んだ足かけ（これをチポはエンジンさんと呼んでいます）があります。

チポはまずハンドルさんにあいさつをすると、ハンドルさんを押したり引いたりしました。

するとどうでしょう。飛行機がゆっくりと前進を始めました。チポはそのまま舵を、おつと間違いました、ハンドルさんを右にいっぱい回しました。ハンドルさんがあわせて、飛行機も右に旋回します。左に回しました。左にも旋回します。

ようし。

チポはお腹に力をいれると、今度はエンジンを元にあこがれをして、エンジンさんを踏みました。

するとどうでしょ。飛行機はわたりと前進を始めました。チポはハンドルさんとエンジンさんを器用にあやつると、ねらいを定め、ハンドルさんを握りしめ、エンジンさんを踏み込んで 飛行機が猛烈なはやさで駆け出しました。

大変です、チポと飛行機の先は崖です。

ああ、わああああ～～！！

と、多くの人は両手で頭を覆い、世の中にあるありとあらゆる最悪の状態を、記憶のたんすから引っ張りだしたかもしません。ですがご安心を。ほら、その十本の指の間から、チポと飛行機を「」見ください。きっとホッとするでしょう。したでしょ。

そう、チポと飛行機は崖から落ちませんでした。そして空を、夜のカーテンで隠された空を、飛んでいました。

風が飛行機の頭からお尻へと流れでゆきます。まるで嵐のような風です。わがままで横暴で、自由気ままに動きまわる、あかんぼうのような風です。

ハンドルさんがミシミシとまるで、疲れた炭坑員の体重に悩まるれるベットのように軋みます。ちょっと力を抜いただけで大きく左右にぶらついて、糸が切れるように落としてしまつことでしょう。チポは両腕に力を入れました。

エンジンさんもフワフワと頼りないです。チポはそちらにも気を配ります。

チポは風で“もみくちゃ”にされながら、あることを思い出していました。みんなのことです。

青い畠の前に立ち尽くすみんな。空のカケラは少しずつ植物を眠らせてします。その植物を食べると、家畜はみんな寝てしまいます。そして眠ったまま、死んでしまうのです。

人もまた例外ではありません。

だからみんなは、畠に落ちた空のカケラを拾つては、海に捨てます。

ですが海に捨てられた空のカケラは、水の粒となり、雲となり、ふたたび畠に降り注ぎます。それを取り除くのは、至難の業でした。少しづつ作物は実らなくなり、みんなの生きる気力もなくなっていました。

チポは思い出します。飛行機を作ろうと言つ出した口を。そのときの、みんなの顔を。

チポをバカにしながら、チポを笑いながら、みんなは泣いていました。みんなの心は、悲鳴をあげていました。

飛行機という生きる望みに輝くチポを、みんなは泣きながら、バカにしていました。バカにしなければ、みんなは生きられなくなつていたのです。

チポはだから、絶対に、飛行機で空を飛んでやろうつと思いました。希望はけして死んではないことを、みんなが死んでいないのだから死んでいないことを、チポは、証明してやろう、と。

ガクン！

とつぜん、大きな手で殴られたようでした。風さえもチポの味方

になつてくれません。

チポは必死に飛行機のバランスを保ちながら、ギリまでも暗い空へと飛び込みます。折り重なる真っ暗闇の向こうへ、その更に向こう。チポは背中に広がる大地へとけして振り向きました。振り向いたら最後だと、チポは思いました。

ハンドルさんを握り、エンジンさんを踏み込んで、飛行機をあやつり、飛行機となつて。チポは空となつて。

空となつて。

気がつくとチポは、空を見ていました。いつもの、あの空ではありません。そればかりか、あたりが穏やかな空氣に変わっています。

死んだのかしら。

チポはぼんやりとしました。ですがすぐにハッとして、エンジンさんへの力を緩めていきました。

ゆづくじと、ゆづくじと。飛行機が下降してゆくのを、チポは感じました。次第に、黒が近づきます。平坦な黒です。

チポはその黒にそつてバランスをとると、飛行機さんのお腹を黒にくつつけました。

次の瞬間、重たい音が爆発し、風よりも激しい振動に襲われました。チポは飛行機さんにしつかりしがみつくと、それに耐えました。何時間か、何分か 黒と飛行機が摩擦し、飛行機が前進をやめてゆき 。

ピタッ。

……あつ、両手で田を覆うのを忘れていましたね。でも大丈夫です。どうやらチポは、無事に着陸したようです。

空に。

いいえ、大地に。

チポは周囲を見渡しました。そこは黒い、豊かそうな大地でした。チポは青い大地しか見たことありませんでしたから、それが大地であると気づくのが一寸おくれました。が、気づいてすぐに、すべてを理解しました。

チポは頭をあげて、上に田をやりました。そこには空が広がっており、小さなチポを見下ろしています。チポはその場所の名前を知っていました。なぜならそれが、チポの故郷だつたからです。

チポの青い大地が空となり、チポの黒い空が大地となつて、小さなチポの世界をつくつしていました。

空のカケラが剥がれた空は大地でした。
空のカケラに埋もれた大地は空だったのです。

生まれて初めて見る空は、チポが今まで見たことのない澄んだ色をしています。月は太陽となり、チポの体に降り注いでいます。その恵みを受けて、黒い大地にはまばらに縁が生えていています。種を植えたら、きっと穀物がよく育つでしょう。穀物を眠つたものたちの口に入れてあげれば、目覚めるかもしれません。この大地は、生きているのですから。

チポの頭の上に、虚空が存在しています。チポのお尻の下に、地平が存在しています。

空と大地の狭間でチポと飛行機は存在しています。
世界にすべてが存在しています。

チボの町には、空を飛ぶたくさんの飛行機が映っています。

fin

(後書き)

いつ書いたか忘れました。
夢でみたことを物語に。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4887j/>

デッドケージ、バタフライ

2010年12月30日19時03分発行